



**老化制御/認知症/アルツハイマー/ガン/糖尿病などに対する  
治癒・改善・予防効果を測る症例研究を開始します。**

2011年ワシントン大学の今井眞一郎教授がマウス実験で糖尿病に劇的な治療効果を上げ、その存在を世界で初めて報告した成分「NMN（ニコチンアミド・モノ・ヌクレオチド）」は、その後の研究で健康寿命をのばす「夢の成分」として大変注目が集まっています。

長寿研究の第一人者の一人シンクレア教授（ハーバード大学）もマウス実験で細胞を若返らせることに成功し、NMNの若返り効果を発見しました。実験では生後22か月（ヒト60歳相当）のマウスにNMNを1週間継続して飲ませ細胞の活性化レベルを計測したところ、生後22か月マウスが生後6か月（ヒト20歳相当）と同じ細胞活性化レベルに達していました。

認知症やアルツハイマー病の多くは脳細胞が老化し神経幹細胞が減ることが関係していますので、NMNを早いうちから摂取していれば神経細胞の減少を食い止め発症を抑える可能性がある事がマウス実験により判明しました。

慶應義塾大学医学部内科学教室の伊藤裕教授、眼科学教室の坪田一男教授、薬理学教室の安井正人教授、生理学教室の岡野栄之教授らと米国ワシントン大学医学部の今井眞一郎教授らの研究グループは抗老化候補物質として期待されるNMNが健康なヒトに安全に投与可能であることを世界で初めて明らかにしました。この事実は2016年より臨床研究を行い2019年11月2日のEndocrine Journal誌に掲載されました。

そこで、当会では活性型β-NMNをサプリメントとして摂取する事で加齢に伴う諸症状や、認知症・ガン・糖尿病などの加齢疾患に対して効果を測る、症例の積み上げによる多施設共同研究を行うことにしました。

- 素材投与期間**      3ヶ月～1年程度
- 素材投与方法**    経口投与
- 効果測定項目**    各種血液検査、自己申告、医師所見など

**<活性型β-NMN>**

**Q：サーチュインを活性化させるのはNAD+なのでNMNではなくNAD+自体を直接、摂取すれば良いのでは？**

**A：脳には血液脳関門というバリアがあり、分子量600以上のNAD+は通過できません。NMNはバリアを抜けて脳細胞に届き、NAD+に合成されます。**

**Q：NMNの原料で安価なニコチンアミド（ビタミンB3）を摂取すれば同じ効果が得られるのでは？**

**A：ニコチンアミドは体内での働きが広いので、他の用途に使われてしまう事が多くNMNには変換されにくいです。また体内恒常性の働きによってNAD+は通常ある一定以上の濃度にはなりません。NMNの補給によってのみNAD+の濃度を通常以上に高められる事が判明しています。**

**栄養成分表示**

- (1g当たり)
- エネルギー 3.6kcal
- タンパク質 0.1g、
- 脂質 0.09g、
- 炭水化物 0.57g、
- 食塩相当量 0.0008g
- NMN 200～600mg  
(フェルラ酸 150mg)  
(リボソームVC 230mg)

日本先進医療臨床研究会  
03-5542-1597  
(平日 10時～17時)

**info@jscsf.org**